

道徳教育「校内研修パッケージ」



「考え、議論する道徳」の 実現に向けて

北海道教育庁学校教育局義務教育課

校内研修パッケージ コンテンツ

- ①新学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳科の授業
- ②道徳教育のカリキュラム・マネジメントの充実
- ③道徳科の特質を踏まえた授業改善
- ④道徳科の授業におけるICTの効果的な活用**
- ⑤道徳科の評価の改善・充実

Contents④

道徳科の授業における I C Tの効果的な活用

道徳科の授業では、
ICTをどのような場面で
どのように活用すると、
効果的ですか？



内 容

- ・ I C T の効果的な活用による道徳科の授業の充実
- ・ I C T の効果的な活用による評価の充実

I C Tの効果的な活用による 道徳科の授業の充実

ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小（中）学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」

※（ ）は中学校の表記

道徳科では、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもたちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道徳」へと転換を図ることが求められています。

指導に当たっては、**道徳科の目標**に示されている**学習活動**に着目し、より効果的な学習となるようにするための**手段**としてICTを活用することが大切です。



ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

多面的・多角的に考える

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、
自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

どの学習場面でどのように端末を活用すると効果的か？

①自分の
考えをもつ



②他者の
考えを知る



③他者と
議論する



④全体で
共有する

ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

多面的・多角的に考えるための活用例



①規則を守るか、例外を認めるか、自分の考えをもつ。



②他者の考えを知る



③他者と議論する



④全体で共有し、規則の意義について考える。

<授業の流れ（例）>

- ①「規則を守るか（規則の尊重）」と「例外を認めるか（親切、思いやり）」との、**いずれの立場を重視するかについて自分の考えを選択し端末に入力**する。
- ②**端末で他者の考え（立場）を知る。**
- ③相互の考えについて根拠に基づき、議論する。
- ④議論した内容を基に、改めて**自分の考えを端末に入力し、全体で考えを共有し、**振り返る中で考えを深める。

※互いの考えを伝え合ったり、相手の思いを受け止めて話し合ったりすることができる
支持的な学級風土が重要となる。

ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

自分自身との関わりの中で深める

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。**

どの学習場面でどのように**端末**を活用すると効果的か？

①他者と
議論する



②自己を
見つめる



③教師が
把握する



④全体に
紹介する

ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

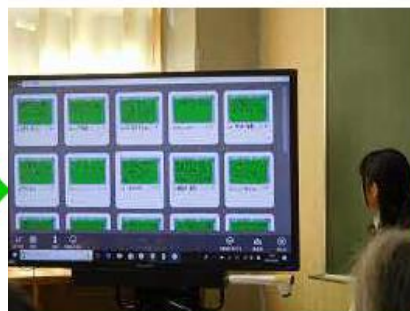
自分自身との関わりの中で深める活用例



①誠実とはどのようなことを他者と議論する



②自分が大切にしたい誠実な心に向き合う。



③教師が把握する



④意図的に指名をして全体に紹介する

<授業の流れ（例）>

- ①「正直、誠実」とは何かについて他者との議論を通して道徳的価値を理解する。
- ②自分自身にとって「**正直、誠実**」は、**何を大切にすることを改めて自己を見つめ整理し、端末に考えを表記**する。
※人前で話すことが苦手な児童生徒も考えを示すことが可能となる。
- ③教師が**端末に入力されたそれぞれの考えを把握・整理し、全体に共有する**。
- ④子どもの考えを全体に紹介する。

ICTの効果的な活用による道徳科の授業の充実

その他、**道徳科**の学習指導過程での I C T 活用**例**

段階	学習の目的	主な学習活動	I C T の活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、 問題意識 をもつ。	・実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・ 自分自身との関わり で考える。 ・ 多面的・多角的 に考える。 ・ 自己の（人間としての）生き方 についての考えを深める。	・教材の提示 (画像や映像等) ・自分の考えをもつ (タブレットに示す) ・他者の考えを知る (タブレットに共有する) (表やグラフ等) ・話し合う（対話） ・自己を見つめる (タブレットに蓄積する)
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての 自己実現への意欲 を高める。	・生活の様子への提示 (画像や映像等) ・外部の方の言葉への提示 (画像や映像等)

I C Tの効果的な活用による評価の充実

ICTの効果的な活用による評価の充実

道徳科における評価の意義

児童（生徒）の**学習状況や道徳性に係る成長の様子**を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

「小（中）学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」
※（ ）は中学校の表記

評価に当たっては、特に、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視することが重要であり、I C Tの効果的な活用が子どもたちの学習活動を促すことにもなります。



ICTの効果的な活用による評価の充実

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。

- ・問題を自分事と捉えているか。
- ・**端末で、他者の考えを知り、共有して**多面的・多角的に考え、自分の考えを表現しているか。



自分の考えをもつ



他者の考えを知る



他者と議論する



全体で共有する

ICTの効果的な活用による評価の充実

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、**多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。**

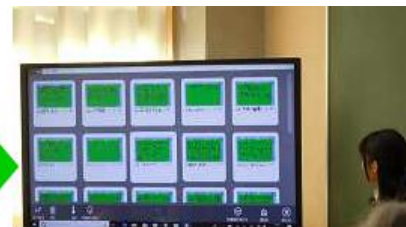
- ・**考えた内容を端末に記録することにより、道徳的価値の理解を基に改めて自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができたか。**



他者と議論する



自己を見つめる



教師が把握する



全体に紹介する

ICTの効果的な活用による評価の充実

道徳科の評価のための活用例



- ・子どもが振り返りやすくなる。
- ・教師が子どもの学習状況を把握しやすくなる。

継続的な授業によって子どもの学習状況を見取り、子どもがいかにか成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

道徳科の授業におけるICTの効果的な活用

道徳科の I C T 活用の留意点

目的 は、**道徳性**を養うこと。

そのための **手段** が、**I C T 活用**の工夫

手段 であるはずの **I C T 活用**の工夫が、

授業の **目的** になると・・・、

**教師
主体** の「**活動あって学びなし**」
の授業になる。

**子ども
主体**

